

トヨタ純正

バックブザー

取付要領書

このたびは、トヨタ純正「バックブザー」をお買いあげいただきありがとうございました。
本書は、「バックブザー」の取り付け要領について記載してあります。
取り付け前に必ずお読みいただき、正しい取り付けをしてください。

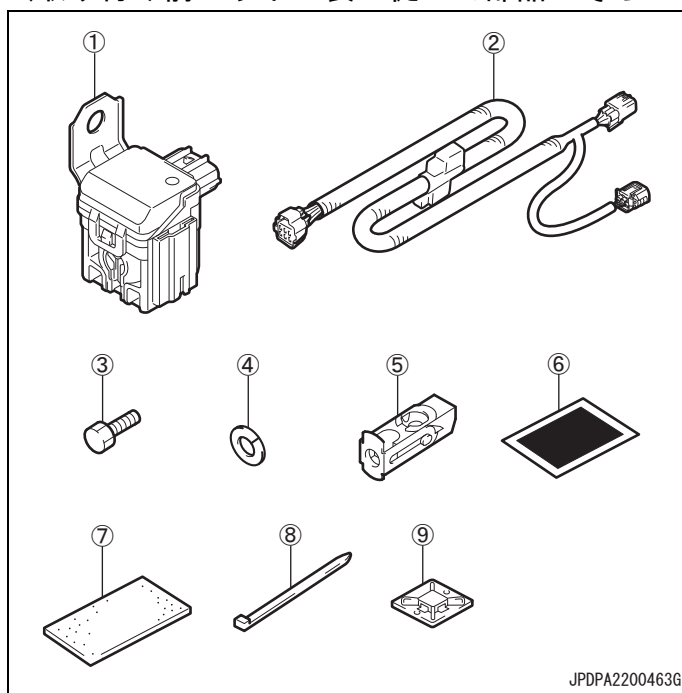
品番

品 番
086A2-B5030

※ 夜間減音機構付き

構成部品

(取り付け前に以下の表に従って部品がそろっているかご確認ください。)



No.	品 名	個数
①	バックブザー	1
②	バックブザー用ハーネス	1
③	ボルト (M6×L20)	1
④	スプリングワッシャー (M6)	1
⑤	ターンナット	1
⑥	保護シート (80 mm×50 mm)	1
⑦	ウレタンシート (140 mm×60 mm)	2
⑧	バンドクランプ	6
⑨	クランプ	1
	取付要領書 (WEB)	1

用語の定義

△ご注意：注意事項を守らないと事故につながったり、けがをしたり、車両・部品を損傷するおそれがあります。

👉アドバイス：作業を容易にするための補足説明について掲載しています。

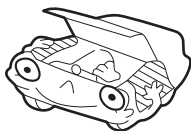
「前・後・左・右」：車両に乗って見た状態を表します。

取り付け上の注意事項

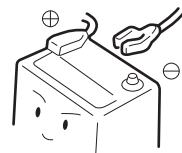
- 本文中の取り付け上の **△ご注意** は、必ず取り付けに反映させて作業をしてください。
もし、**△ご注意** を無視して取り付けると製品の機能を阻害するばかりでなく、車両故障につながるおそれがあります。
- 車両部品の取りはずしに際して、タッピングスクリューやボルト、ナット類の紛失や混乱がないように部品ごとに整理して、復元する際に間違えないよう配慮してください。また、傷を付けたりしないように取り扱いに注意して作業をしてください。
- 本書で指示した以外の車両部品を取りはずさないでください。
- 誤って取り付けた場合、製品の機能を阻害するばかりでなく、車両機能を損ない、ひいては車両故障につながるおそれがあります。また、その際には保証の対象にはなりませんのでご注意ください。
- 電動パーキングブレーキ付き車は必ずスイッチの表示灯が点灯していることを確認してからバッテリーの（－）端子をはずしてください。
- 作業前にパーキングブレーキがかかっていることを確認してください。

取り付ける前に

- (1) 車両を汚したり、傷を付けないように作業部周辺にはカバーを付けてください。



- (2) ハーネスのショート事故防止のため、必ずバッテリーの（－）端子をはずしてください。



部品の取り付けは

- (1) 裏側のハーネスを噛み込んで、ボルト、ナットを締め付けしないでください。

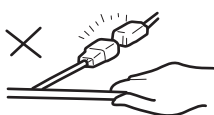


- (2) 取り付け穴をあける時は、必ず裏側に何も無いことを確認してください。

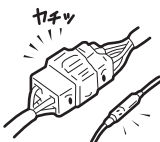


ハーネスの配線は

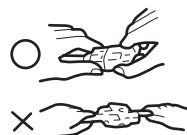
- (1) 車両ハーネスは、強く引っ張らないでください。コネクタはずれや配線損傷の原因になります。



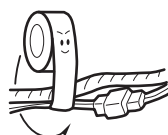
- (3) コネクタやターミナルは確実に接続してください。



- (2) コネクタは、リード線を引っ張らず、コネクタ本体を持てはずしてください。



- (5) ハーネスやリード線は、ブラブラしないように車両ハーネスなどにまとめ、テープで固定してください。



- (4) ハーネスが、車両内側のエッジや高熱部品・可動部に接触していないか確認してください。

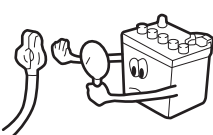


- (6) バンドクランプを使用した箇所は、必ずバンドクランプ先端の余り部を切断してください。



取り付けが終わったら

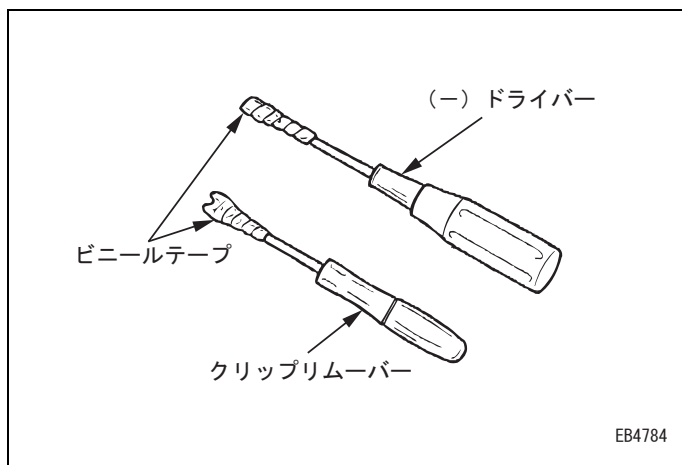
- (1) バッテリーの（－）端子を接続する前に、いま一度取り付けや配線に誤りがないか確認してください。



- (2) キットの作動確認を行うと同時に、車両のランプ・ホーン・ワイパーなどの装置が正常に作動するか確認してください。



JPDPA2100962G

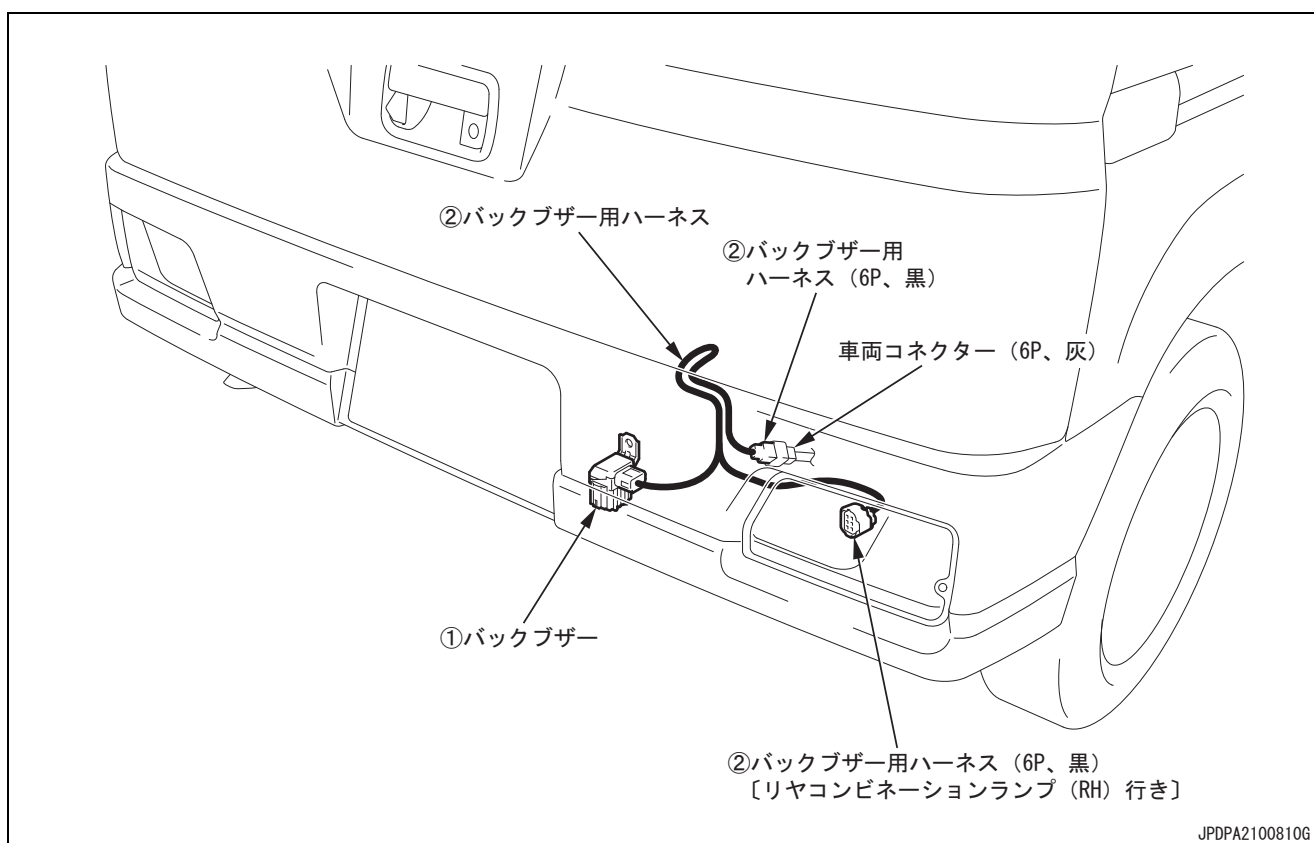


注意 2. に関連して使用する工具〔クリップリムーバー、(一) ドライバーなど〕には、車両部品を傷付けないために、ビニールテープ類を巻いてください。

取り付けに必要な工具

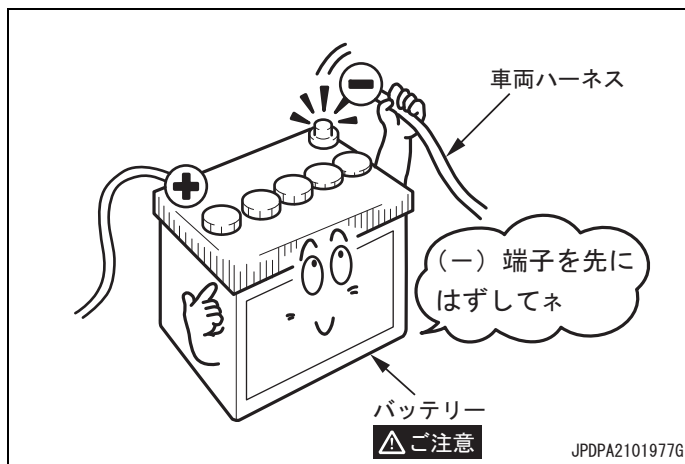
一般工具、トルクレンチ、電動ドリル、ドリル刃（φ3、φ6、φ10）、保護テープ、ビニールテープ、ニッパー、クリップリムーバー、マグネットハンド、メジャー、防錆ペイント、ポンチ、保護めがね、ヤスリ、脱脂剤等、ケブラ手袋

取り付け概要



JPDPA2100810G

取り付け要領



●バッテリーの（－）端子をはずす。

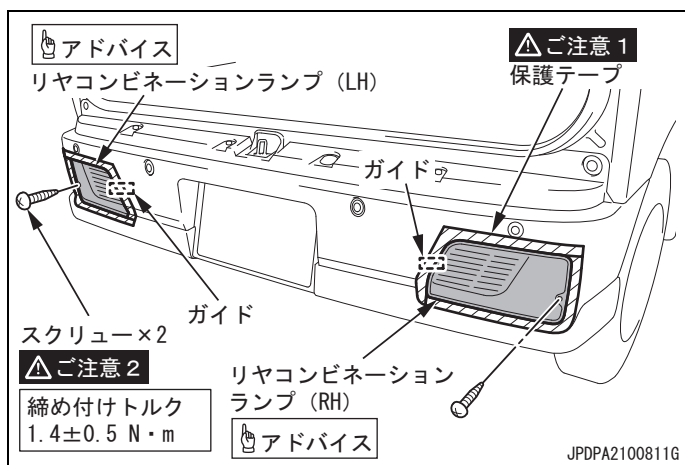
△ご注意

バッテリーの（－）端子をはずさずに作業をして、配線間および配線とボデーの間にショートさせた場合、傷害、火災および車両や製品の故障、破損の原因につながるおそれがあります。

1. 車両部品の取りはずし

👉 アドバイス

車両部品の取りはずし、復元については、サービスマニュアルを参照してください。



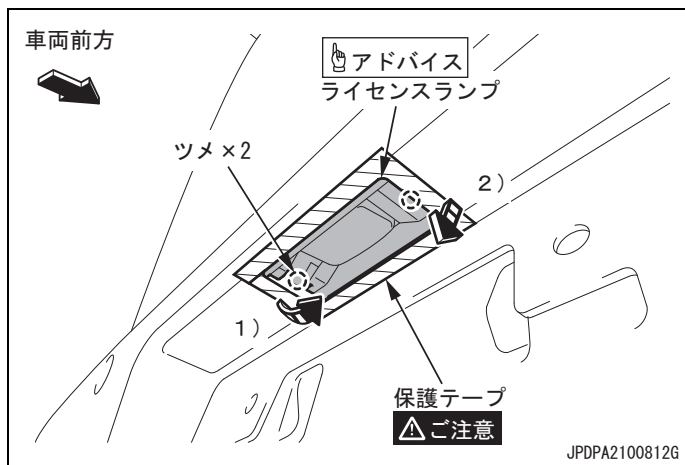
(1) リヤコンビネーションランプ (RH, LH) (スクリュー各 1 個、ガイド各 1 箇所) を取りはずす。

△ご注意

1. 車両に傷が付かないように、左図の位置に保護テープを貼ってください。
(保護テープを貼らずに作業をした場合、車両に傷が付くおそれがあります。)
2. 復元の際、締め付けトルクを厳守して作業をしてください。
 $1.4 \pm 0.5 \text{ N} \cdot \text{m}$

👉 アドバイス

リアコンビネーションランプ (RH, LH) 裏側の車両コネクターの接続をはずしてください。



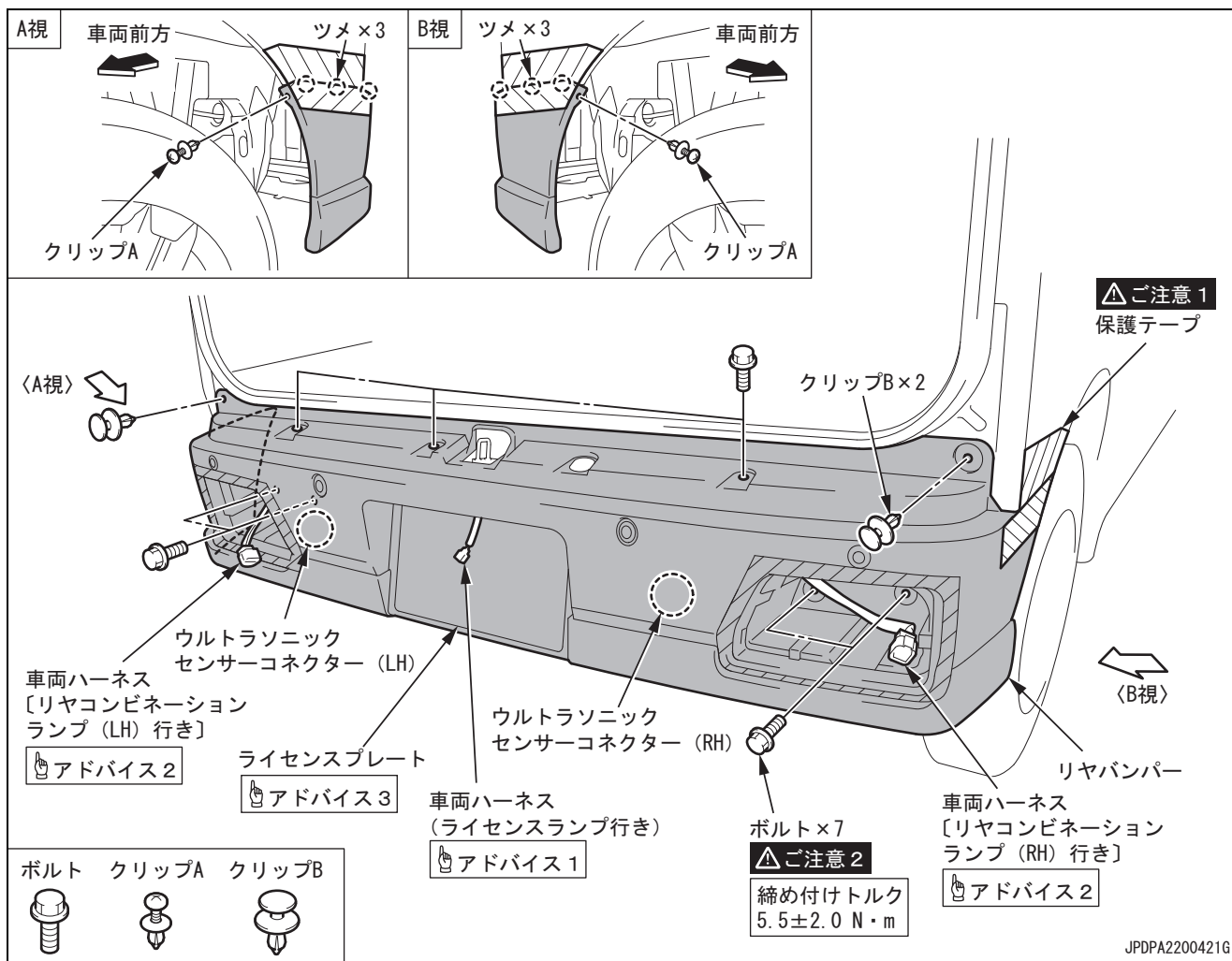
(2) ライセンスランプ (ツメ 2 箇所) を左図の 1) → 2) の順で取りはずす。

△ご注意

車両に傷が付かないように、左図の位置に保護テープを貼ってください。
(保護テープを貼らずに作業をした場合、車両に傷が付くおそれがあります。)

👉 アドバイス

ライセンスランプ裏側の車両コネクターの接続をはずしてください。



(3) リヤバンパー [ボルト7個、クリップ4箇所、ツメ6箇所、ウルトラソニックセンサーコネクタ (RH、LH)] を取りはずす。

△ご注意

1. 車両に傷が付かないように、上図の位置に保護テープを貼ってください。
(保護テープを貼らずに作業をした場合、車両に傷が付くおそれがあります。)
2. 復元の際、ボルト7個は締め付けトルクを厳守して作業をしてください。
 $5.5 \pm 2.0 \text{ N} \cdot \text{m}$



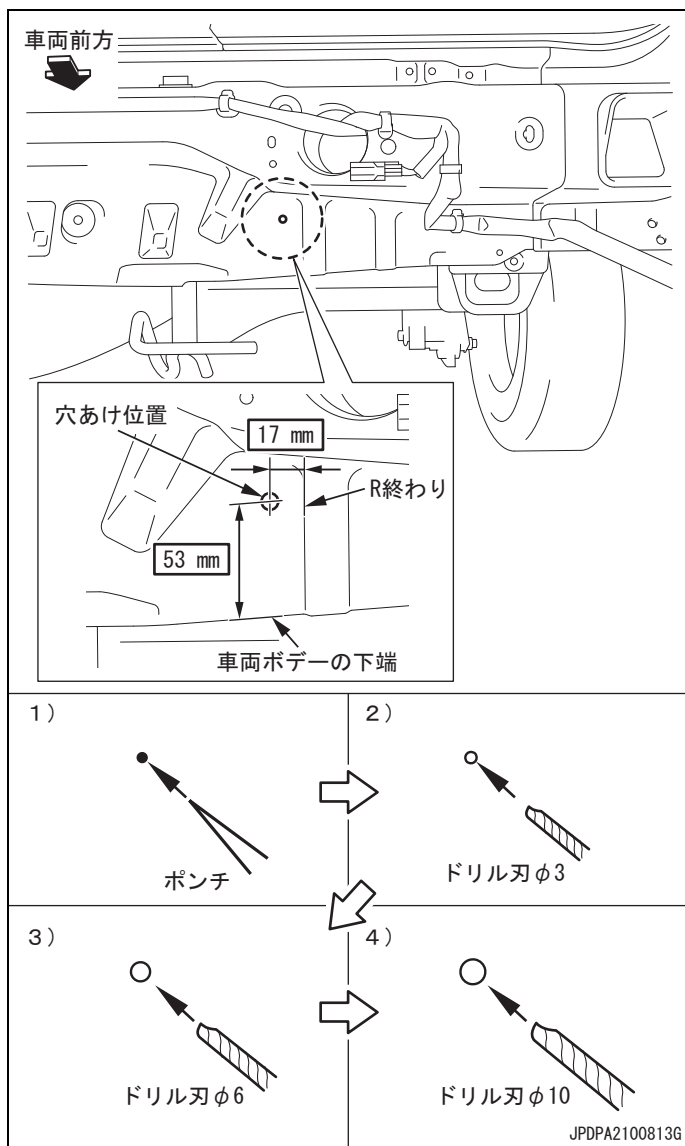
アドバイス

1. リヤバンパーを取りはずす際、車両ハーネス (ライセンスランプ行き) をリヤバンパー内側へ通してください。
2. リヤバンパーを取りはずす際、車両ハーネス [リヤコンビネーションランプ (RH、LH) 行き] をリヤバンパー内側へ通してください。
3. ライセンスプレートがある場合、ライセンスプレートを取りはずしてください。

2. 車両フレームの穴あけ

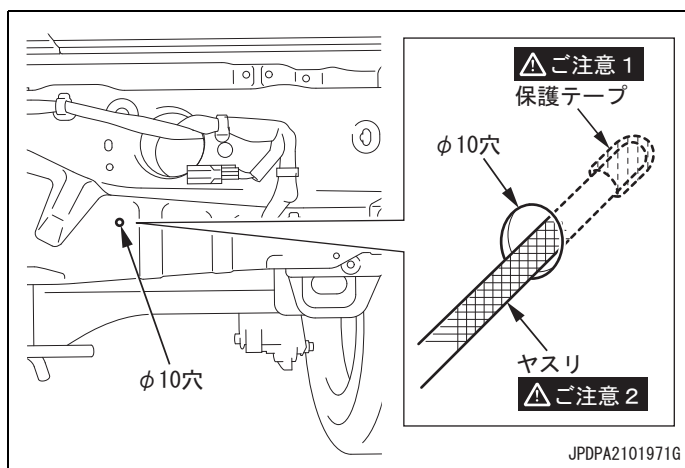
⚠ ご注意

電動ドリルで穴あけ作業をする際、保護めがねを着用し、手袋は着用しないでください。
(手袋が回転部に巻き込まれ、けがの原因になります。)



(1) バックブザー取り付け用の穴を左図の位置にあける。

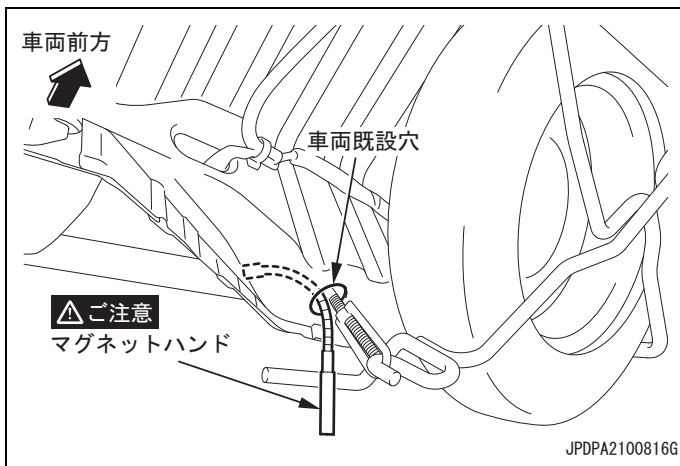
- 1) 穴あけ位置にポンチなどで印を付ける。
- 2) ドリル刃 $\phi 3$ で下穴をあける。
- 3) ドリル刃 $\phi 6$ で穴を広げる。
- 4) ドリル刃 $\phi 10$ で穴を広げる。



(2) 穴あけした $\phi 10$ 穴のバリをヤスリで取り除く。

⚠ ご注意

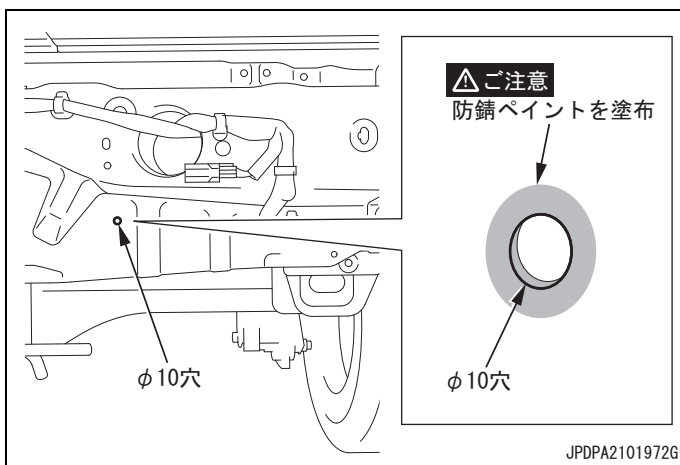
1. 車両フレームに傷が付かないように、ヤスリの先端に保護テープを貼ってください。
(保護テープを貼らずに作業をした場合、車両フレームに傷が付くおそれがあります。)
2. バリをヤスリで取り除く際、 $\phi 10$ 穴が広がらないようにしてください。
($\phi 10$ 穴が広がった場合、バックブザーを取り付けることができなくなるおそれがあります。)



(3) 車両既設穴からマグネットハンドを差し込み、切り粉を取り除く。

△ご注意

切り粉をすべて取り除いてください。
(すべて取り除かなかった場合、錆が発生するおそれがあります。)



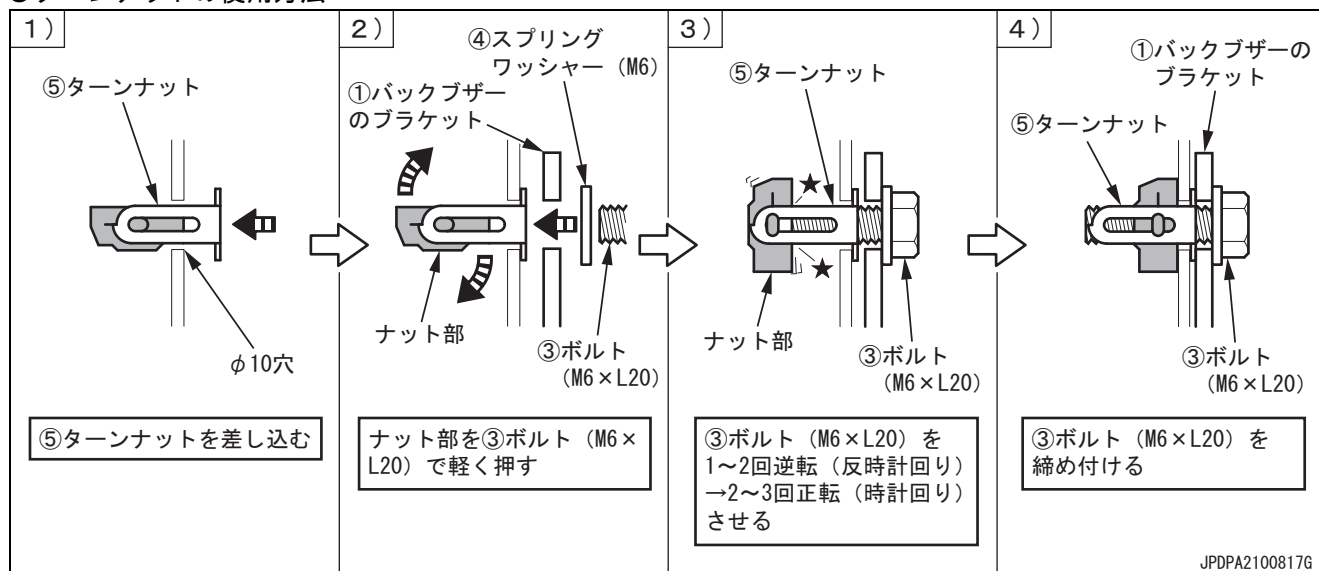
(4) 穴あけした φ10 穴に防錆ペイントを塗布する。

△ご注意

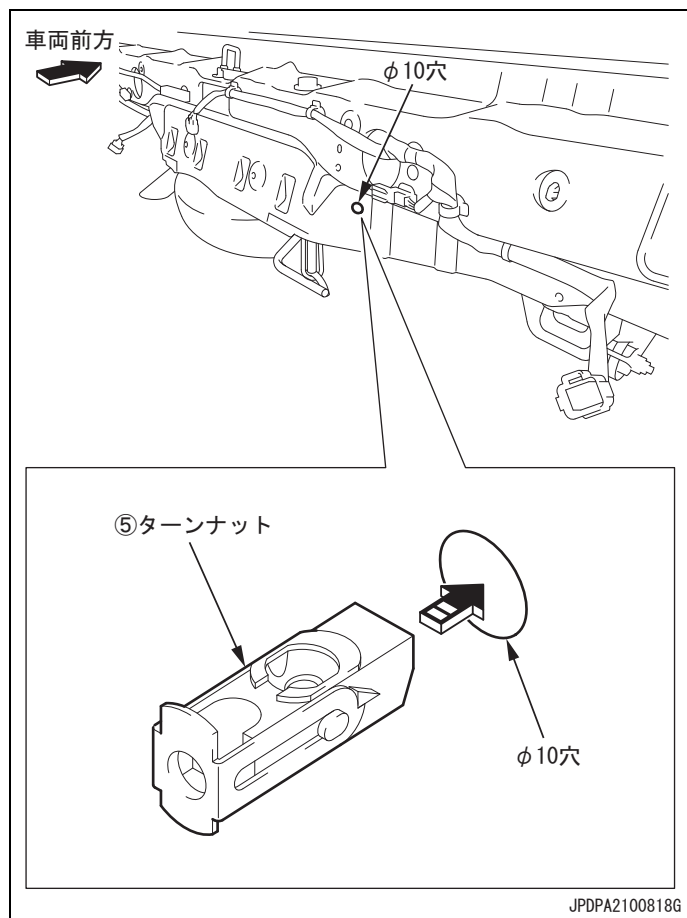
防錆ペイントが完全に乾いてから次の作業をしてください。
(完全に乾いていない場合、錆が発生するおそれがあります。)

3. バックブザーの取り付け

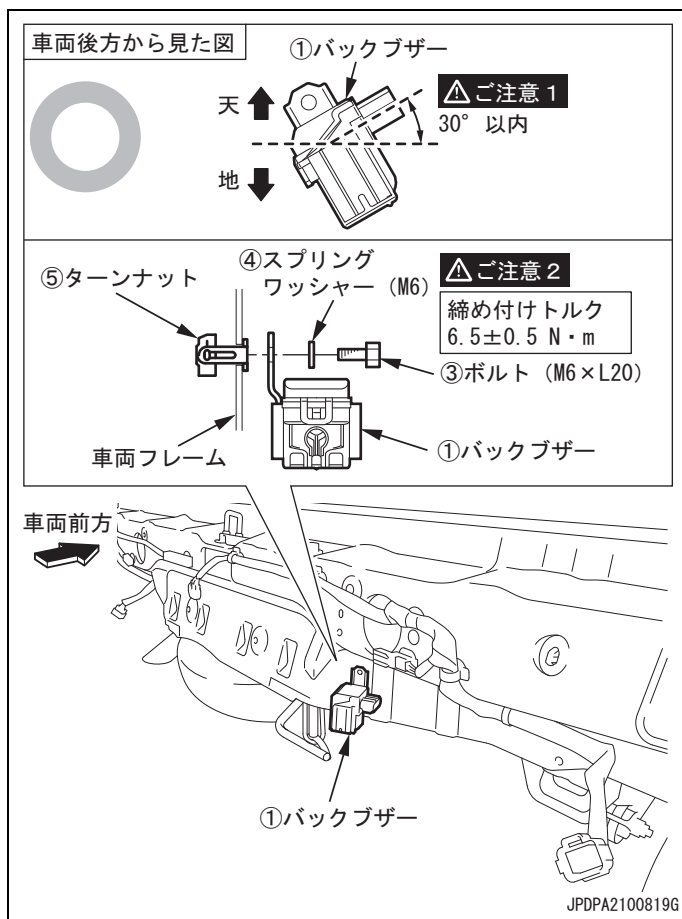
●ターナットの使用方法



- 1) ⑤ターナットを φ10 穴に差し込む。
- 2) ナット部を④スプリングワッシャー (M6) を通した③ボルト (M6×L20) で軽く押して、ナット部を回転させる。
- 3) ③ボルト (M6×L20) を押しながら 1～2 回逆転 (反時計回り) させ、そのまま 2～3 回正転 (時計回り) させる。
- 4) ③ボルト (M6×L20) とねじ山がかみ合ったことを確認し、③ボルト (M6×L20) を締め付ける。



- (1) ⑤ターナットを φ10 穴に差し込む。



- (2) ①バックブザーを③ボルト (M6×L20) および④スプリングワッシャー (M6) で⑤ターンナットに固定する。
(⑤ターンナットの使用方法は P. 8 参照)

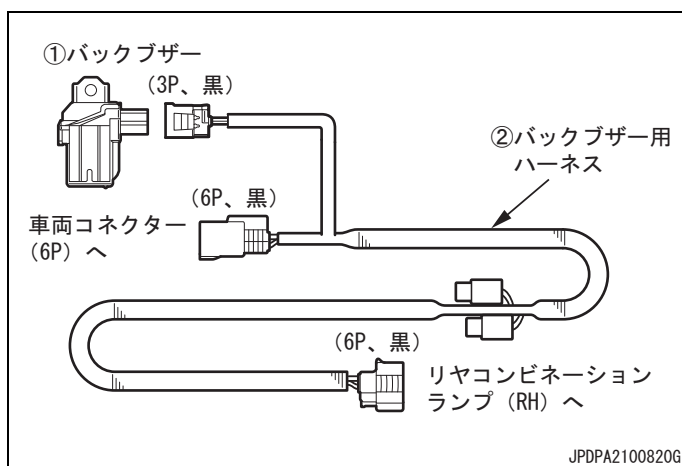
△ご注意

- ①バックブザーの取り付け角度は地面に対して必ず水平 (水平方向より 30° 以内) に取り付けてください。
(上記作業を守らなかった場合、製品の故障、破損につながるおそれがあります。)
- 締め付けトルクを厳守して作業をしてください。
6.5±0.5 N・m

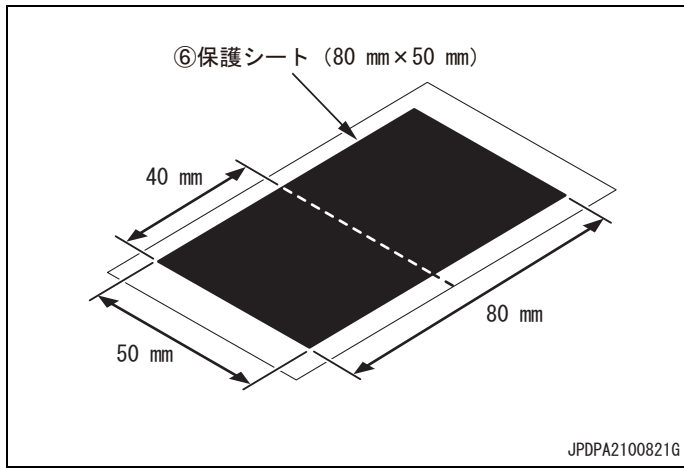
4. バックブザー用ハーネスの配線

△ご注意

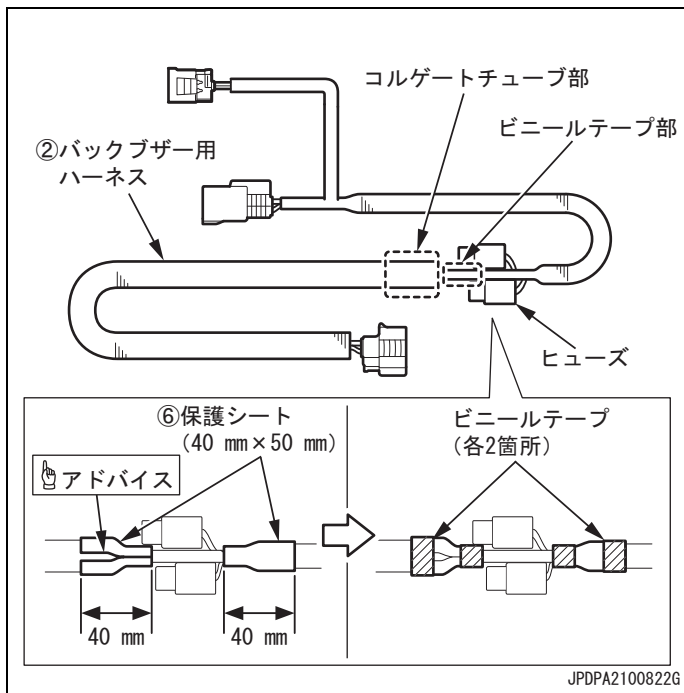
車両ブラケットなどのエッジ部付近で配線作業をする際、けがをするおそれがあるため、ケブラ手袋を着用してください。



アドバイス
左図は配線要領を示します。



- (1) ⑥保護シート (80 mm×50 mm) を半分に切る。

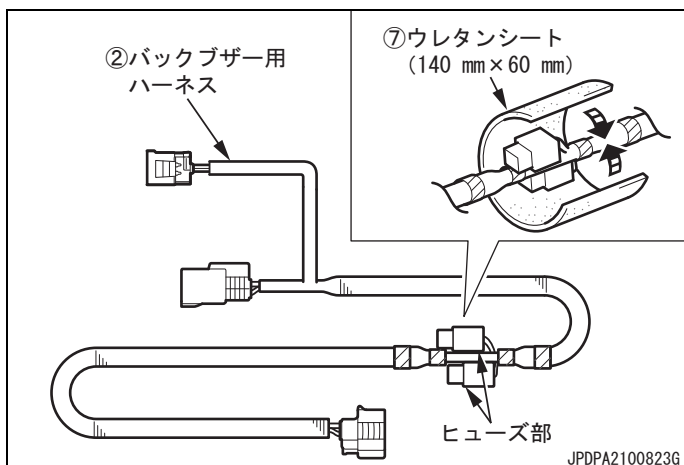


- (2) ⑥保護シート (40 mm×50 mm) 2 枚を②バックブザー用ハーネスに巻く。

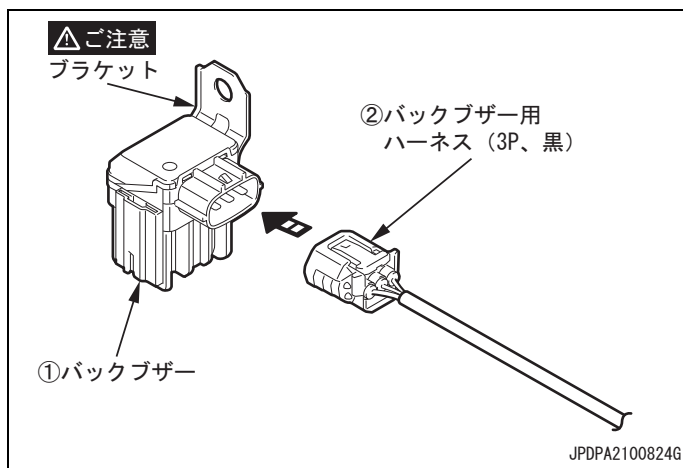
👉 アドバイス

⑥保護シート (40 mm×50 mm) はビニールテープ部を保護するために巻きます。コルゲートチューブ部は太さの関係上、1 周巻けません、取り付けに支障はありません。

- (3) ⑥保護シート (40 mm×50 mm) を巻いた②バックブザー用ハーネスにビニールテープを巻く。(各 2 箇所)



- (4) ⑦ウレタンシート (140 mm×60 mm) 1 枚をヒューズ部 (2 個) に巻く。

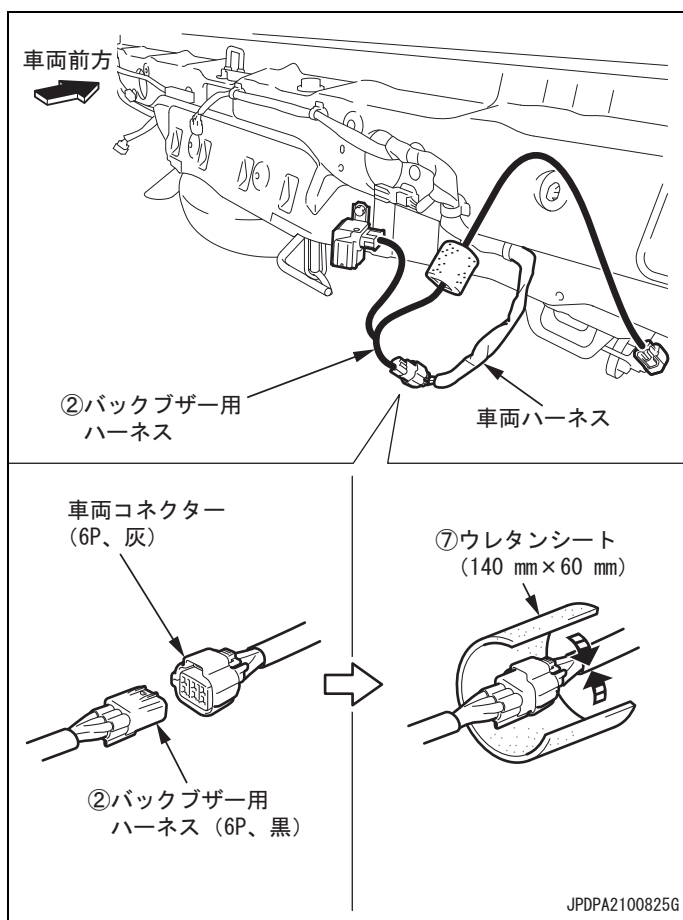


- (5) ②バックブザー用ハーネス (3P、黒) を①バックブザーに接続する。

△ご注意

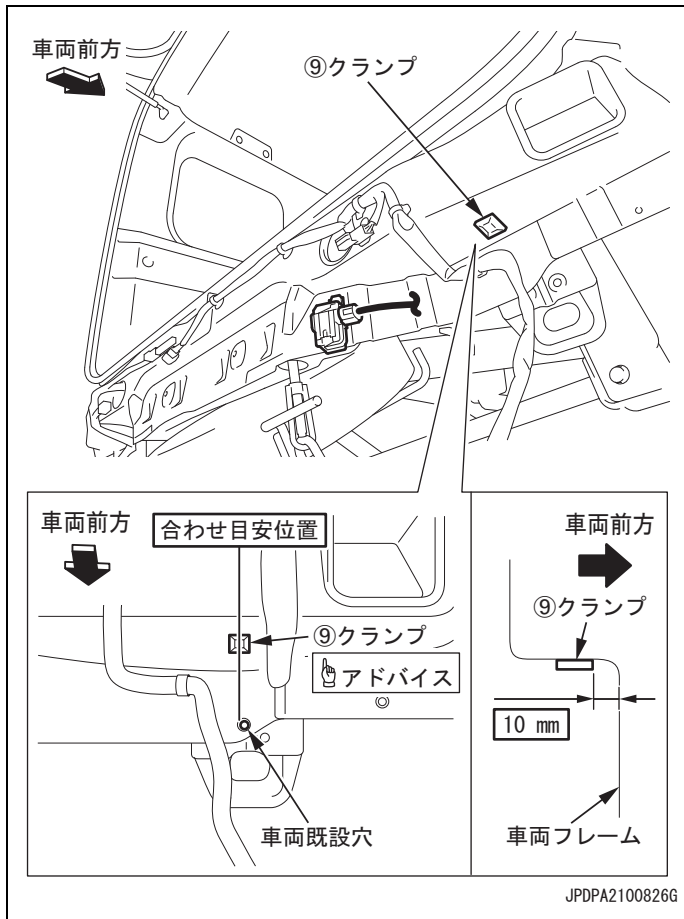
②バックブザー用ハーネス (3P、黒) を接続する際、①バックブザーを手で支えながら、②バックブザー用ハーネス (3P、黒) を接続してください。

〔①バックブザーを手で支えずに②バックブザー用ハーネス (3P、黒) を接続した場合、①バックブザーのブラケットに無理な力が掛かり、①バックブザーが破損するおそれがあります。〕



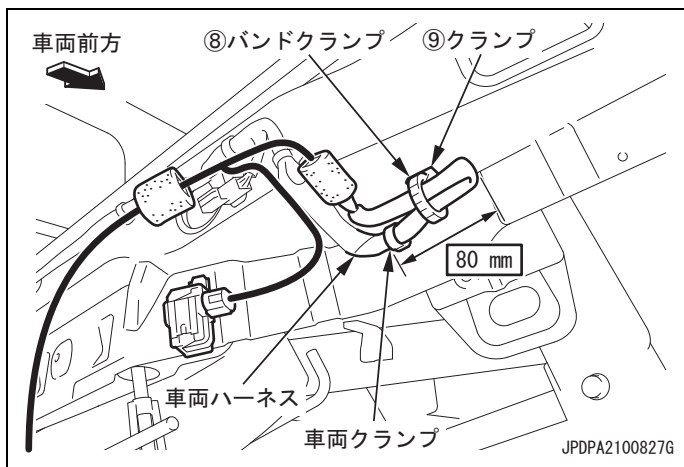
- (6) ②バックブザー用ハーネス (6P、黒) をリヤコンビネーションランプ (RH) の車両コネクタ (6P、灰) に接続する。

- (7) ⑦ウレタンシート (140 mm×60 mm) 1 枚をコネクタ接続部に巻く。

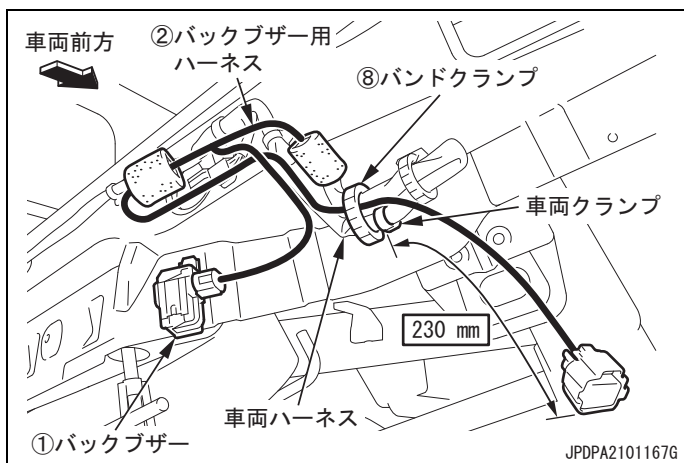


- (8) ⑨クランプ貼り付け位置を脱脂剤等で脱脂する。
- (9) ⑨クランプを車両フレームに貼り付ける。

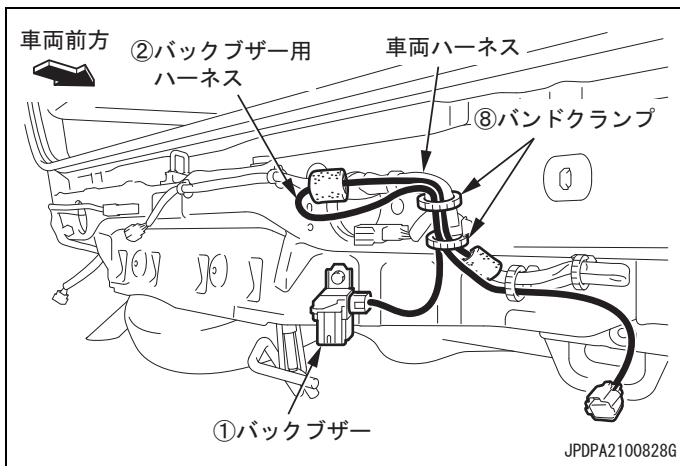
👉 アドバイス
⑨クランプはシーラーと重ならない位置に貼り付けてください。



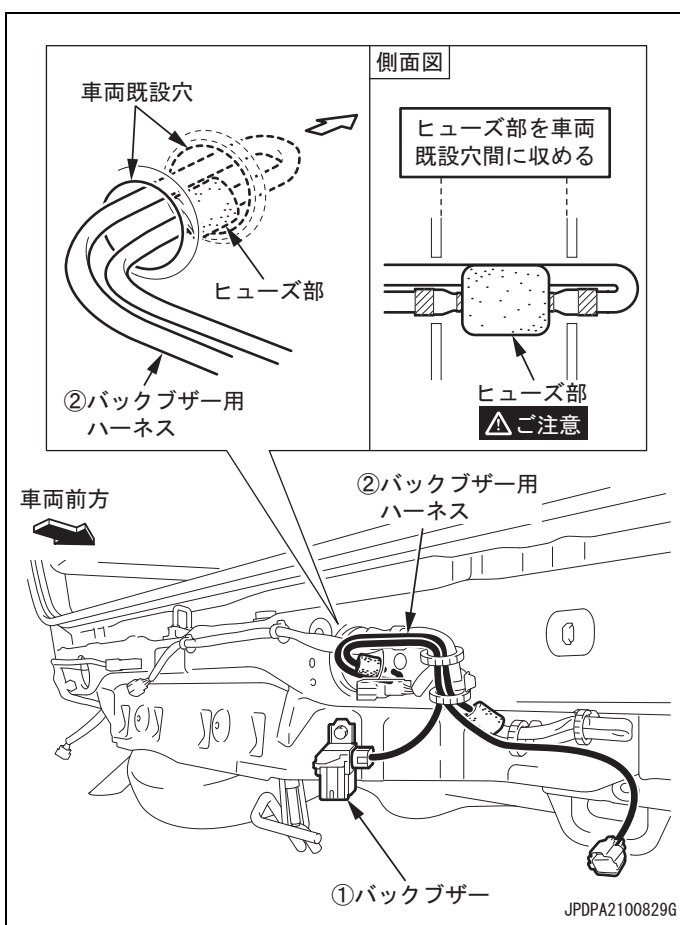
- (10) 車両ハーネスを車両クランプから車両右側 80 mm の位置で折り曲げ、⑨クランプに⑧バンドクランプで固定する。



- (11) ②バックブザー用ハーネスのコネクター先端から 230 mm の位置を車両ハーネスに⑧バンドクランプで固定する。



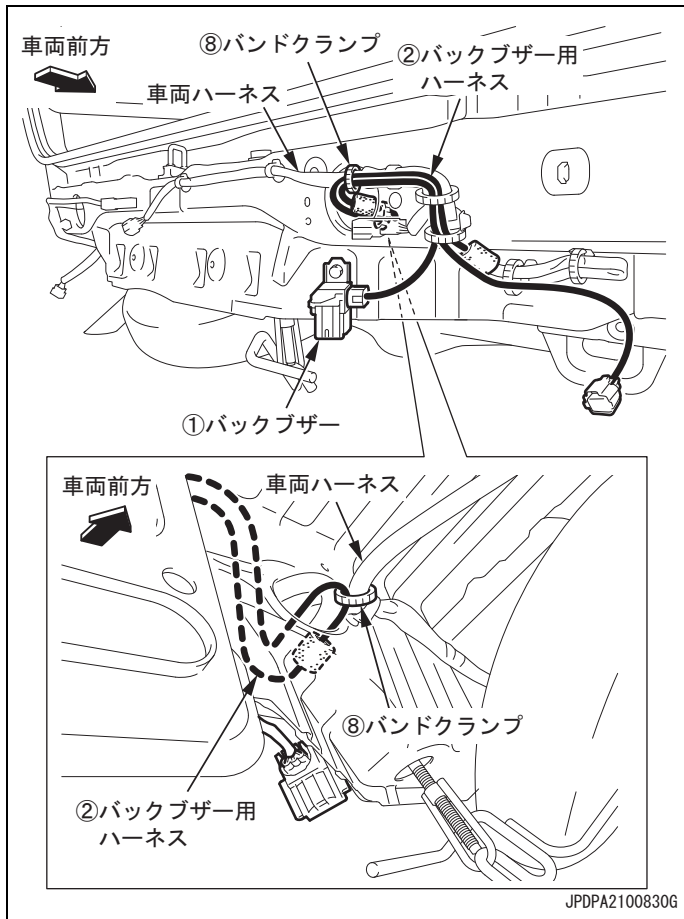
- (12) ②バックブザー用ハーネスを車両ハーネスに⑧バンドクランプ2本で固定する。



- (13) ②バックブザー用ハーネスを車両既設穴に通す。

△ご注意

ヒューズ部を車両既設穴間に収めてください。
(車両既設穴間に収めなかった場合、車両部品が復元できなくなるおそれがあります。)



- (14) ②バックブザー用ハーネスを車両ハーネスに⑧バンドクランプ2本で固定する。

5. 車両部品の復元

「1. 車両部品の取りはずし」の逆手順で、車両部品を復元してください。

最終確認

1. 取り付けの確認

- (1) 配線や取り付けに異常がないか点検する。
- (2) 特に車両ハーネスおよび②バックブザー用ハーネスを無理に押したり、引っ張ったり、噛み込んだりしていないか点検する。また部品の締め付け忘れはないかもう一度確認する。

2. 作動確認

⚠ ご注意

輪止めにより、車両が動かないようにしてください。

- (1) バッテリーの(－)端子に車両ハーネスを接続する。
- (2) 運転席および助手席のウィンドウを開ける。
- (3) バックブザーが下記の「作動確認要領」通りに作動するか確認する。

■作動確認要領

	(操作手順)	(確認項目)
(1)	IG ONまたはEVシステムONにする。 (エンジン車の場合はエンジンを始動させない。)	バックブザーの消音確認
(2)	IG ONまたはEVシステムONのまま、 シフトレバーを「R(リバース)」へシフトする。	バックブザーの吹鳴確認
(3)	シフトレバーを「R(リバース)」のまま、 テールランプを点灯させる。	バックブザーの減音確認
(4)	テールランプを点灯のまま、 シフトレバーを「R(リバース)」以外へシフトする。	バックブザーの消音確認

JPDP A2200494G

■リヤコンビネーションランプの作動確認

リヤコンビネーションランプ (RH、LH) を復元してから作動確認をする。

- ・テールランプの点灯
- ・ブレーキランプの点灯
- ・ハザードランプの点灯
- ・方向指示ランプの点灯
- ・リバースランプの点灯

■リヤソナー機能検査

リヤソナーの機能検査を行い正常である事を確認する。



アドバイス

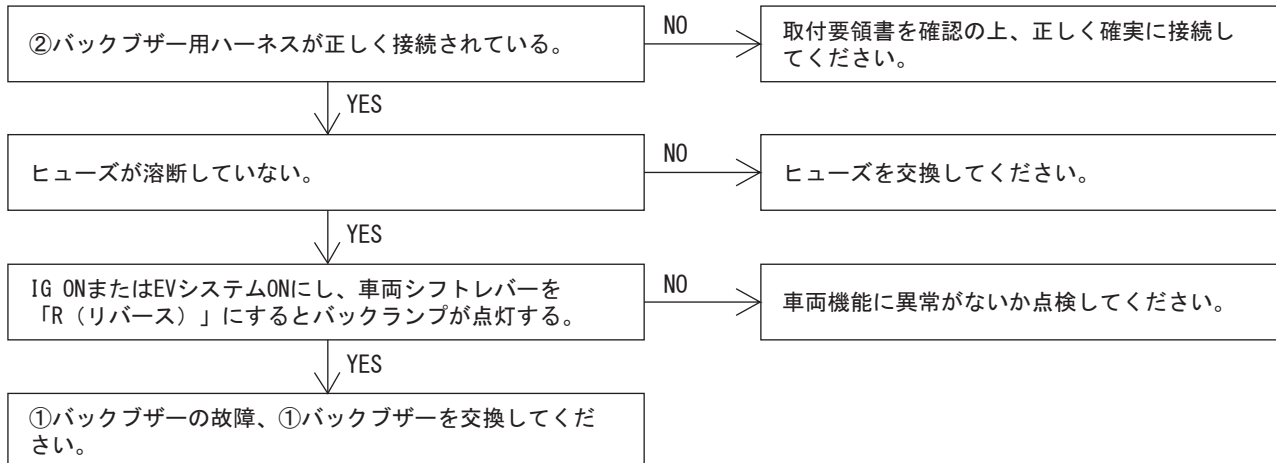
機能検査の詳細についてはサービスマニュアルを参照してください。

トラブルシュート

1 シフトレバー「R（リバース）」時、ブザーが吹鳴しない

△ご注意

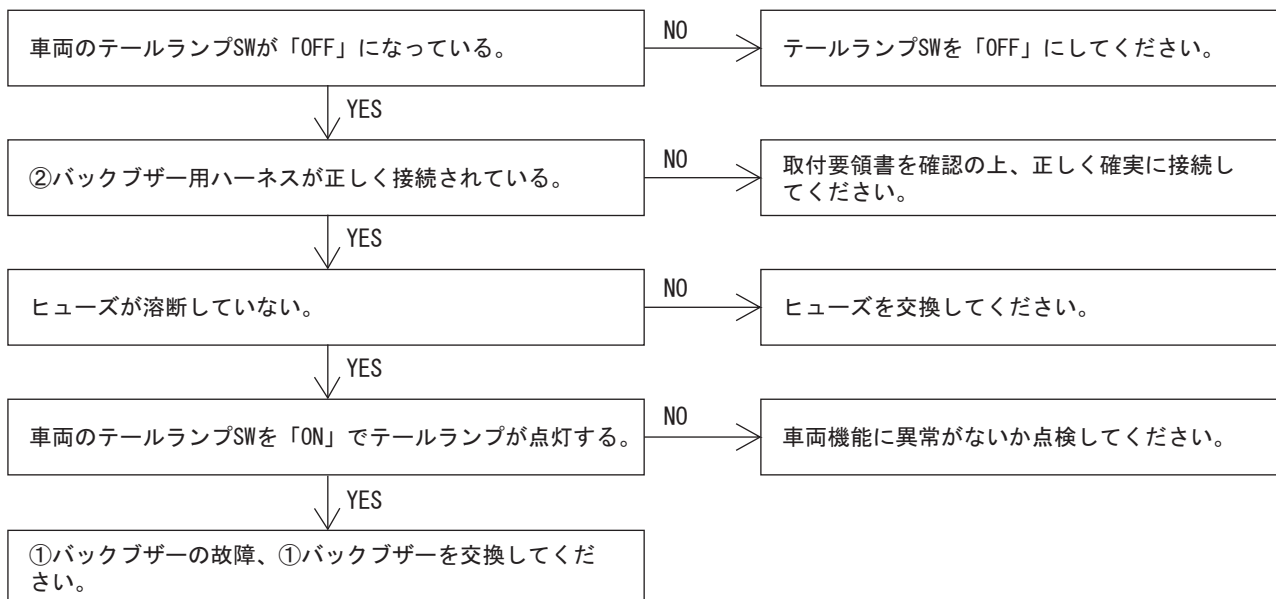
- ・ 輪止めにより、車両が動かないようにしてください。
- ・ エンジン車の場合は絶対にエンジンを始動した状態で作業しないでください。
（エンジン停止中の作動は、バッテリー上がりになるおそれがありますので注意してください。）



2 シフトレバー「R（リバース）」時、ブザー音が小さい

△ご注意

- ・ 輪止めにより、車両が動かないようにしてください。
- ・ エンジン車の場合は絶対にエンジンを始動した状態で作業しないでください。
（エンジン停止中の作動は、バッテリー上がりになるおそれがありますので注意してください。）

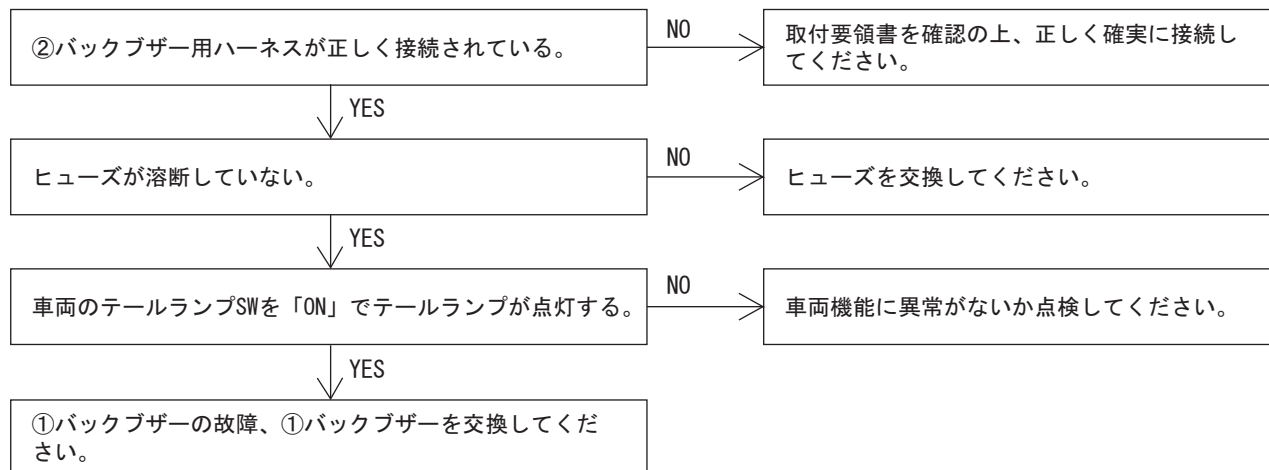


JPDPA2200495G

3 テールランプSW「ON」時、ブザー音が小さくならない

⚠️ ご注意

- ・ 輪止めにより、車両が動かないようにしてください。
- ・ エンジン車の場合は絶対にエンジンを始動した状態で作業しないでください。
(エンジン停止中の作動は、バッテリー上がりになるおそれがありますので注意してください。)



JPDPA2200496G

復元作業

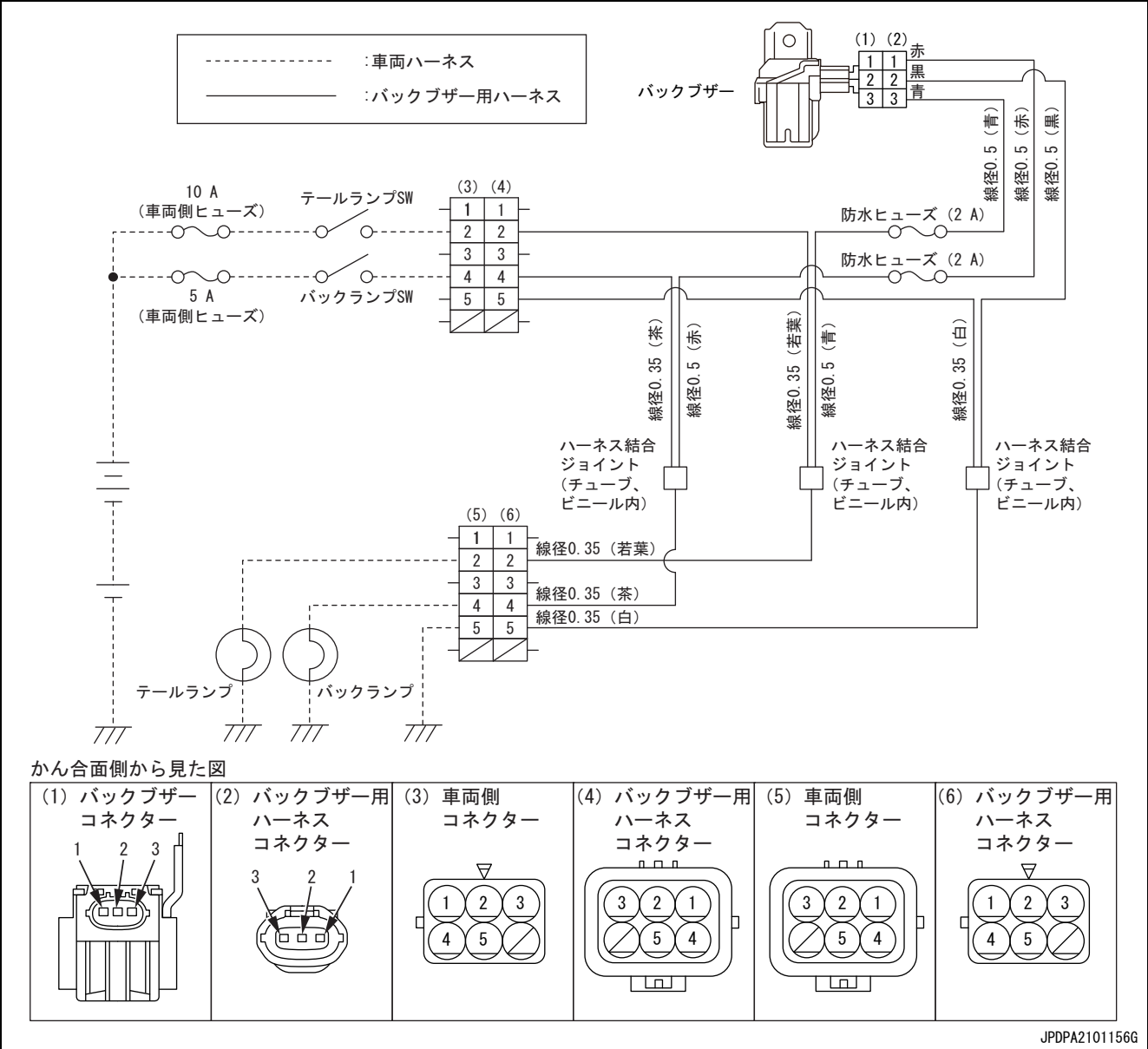
「作動確認」完了後、バッテリー端子を元通りに復元する。

■ バッテリー復元時の注意事項

⚠️ ご注意

バッテリー復元作業終了後に、車両機能部品の初期化が必要な部品があります。作業終了後には必ず初期化作業をしてください。

配線図



仕様

仕 様		
公 称 電 圧	12 V	
電 流	50 mA 以下	
作 動 電 圧 範 囲	8 ～ 16 V	
使 用 温 度 範 囲	－ 30 ～ ＋ 80 ℃	
保 存 温 度 範 囲	－ 40 ～ ＋ 85 ℃	
音圧レベル	通常吹鳴時	87 dB (A) (※)
	減音吹鳴時	70 dB (A) (※)

※：ブザー単品での仕様です。
仕様は製品改良のため予告なく変更することがあります。

【MEMO】

取り付け店殿へのお願い

- ・バックブザーを取り付けても、自動車を後退させようとするときは必ず車の後方の安全を確認するようお客様にご説明ください。
- ・このバックブザーは“夜間減音機構付き（テールランプが点灯すると減音となる。）”であることをお客様にご説明ください。

・車両、製品の仕様などの変更により本書の内容と一致しない場合がありますのでご了承ください。

発行年月 2021年12月